ツールやAIを入れても使われない会社と、根づく会社の違い

7つの型と、
根づく会社の5つの共通点

最初の90日の進め方と、自社で確かめる10の問いつき。

合同会社REN



INDEX

01 数字で見る現状

02 7つの型 ①〜④

03 7つの型 ⑤〜⑦

04 根づく会社の共通点

05 社長がやる3つのこと

06 最初の90日の進め方

07 定着を測る物差し

08 自社で確かめる10の問い

09 AIならではの注意



数字で見る「使われない」

道具が足りないのではなく、使い道が決まっていない

AIやITを入れた中小企業の約3割が「従業員による活用が進まない」と答えています。推進役を決めず個別に進める会社が約9割。生成AIをためらう理由の1位は「効果的な活用方法がわからない」で、米国（9.7%）の約3倍です。DXの成果を測る指標を決めている企業は3割に届きません。

28.9%
活用が停滞

88.0%
個別に推進



30.1%
使い方が不明

27.4%
成果指標あり

出典：28.9%・88.0% 中小企業基盤整備機構「中小企業のAI・IT活用に関する実態調査」2026年3月（有効回答1,668社）

30.1% 総務省『令和7年版 情報通信白書』／27.4% IPA『DX動向2025』（DXの成果を測る指標。米国は89.8%）

使われない会社に共通する7つの型

①〜④：入れ方と、社長の関わり方

型	よくある声	見分ける問い
① 入れたことがゴール	「指示を出して、返ってきたものを使っている段階」	入れた後に、使い方を広げる取組をしたか
② 使い道が決まっていない	「だんだん『別にないな』となってきた」	何の仕事を変えるか、一文で言えるか
③ 進め方を変えずに足す	「いつものチャットと同じ使い方しかできていない」	入れた後に、手順書を書き換えたか
④ 社長が任せきり	（本人からは声が上がりにくい）	社長が月1回、使われ方を見ているか

使い始めることと、使い続けることは別の話です。研究では、ITの効果は職場の仕組みの作り直しとセットで出ること、経営の支援が「使うのが当たり前」の風土をつくることが分かっています。

使われない会社に共通する7つの型

⑤〜⑦：人と数字と、AIならではの問題

型	よくある声	見分ける問い
⑤ 聞ける人と練習の場がない	「几帳面な人は登録している。自分は読み込んでいない名刺が大量にある」	「この人に聞けば分かる」を全員が知っているか
⑥ 効果を測っていない	「ほとんど使わないまま。今年で解約します」	使っている人の数を、毎月見ているか
⑦ AIの出力を確かめる力とルールがない	「作ったものを確認せずに、そのまま出してくる」	出力を誰がどう確かめるか、決まっているか
同時に起きやすい組み合わせ	①②④⑥は、同じ会社で同時に起きやすい（当社の見立て）	1つ当てはまったら、ほかの型も確かめる

同僚に気軽に聞ける人ほど、新しいシステムを使います。DXの成果を測る指標を決めている企業は、日本27.4%、米国89.8%。AIは得意・不得意の境目が見えにくく、苦手な仕事で頼ると正解にたどり着きにくくなります。

根づく会社の5つの共通点

中小企業の実例は、すべて公的資料に掲載されたもの

使われるかどうかを分けるのは、ツールの良し悪しより、入れた後に会社が何をするかです。



共通点	実例（業種）と、やったこと
A 社長が自分で旗を振る	松月産業（宿泊）：社長と幹部が自らパソコンの入力から教えた
B 使い道と目標を先に決める	倉岡紙工（紙加工）：「まず従業員の困りごとを取り除く」を方針に、必要最小限から
C 道具に合わせて流れを作り直す	広島メタルワーク（金属製品）：「既存のデジタルツールに合わせて仕組みを変えていく」
D 説明し、試させ、小さく始める	MPS（倉庫）：事前説明会と試用期間。本社で浸透を確かめてから他の事業所へ
E 社内に聞ける人を置く	後藤組（総合建設）：専任チームの支援で、現場の社員が自ら業務アプリを作る

出典：松月産業・MPS＝2021年版 中小企業白書／倉岡紙工・広島メタルワーク＝2025年版 中小企業白書／後藤組＝経済産業省「DXセレクション2025」グランプリ

社長がやることは3つだけ

使い道を決め、時間を出し、毎月見る

定着は現場のやる気の問題ではありません。中小企業の生成AI推進策で最も多いのは「経営幹部から各部署に、やることと目標を示す」でした（32.9%）。社長が関わるほど、「使うのが当たり前」の空気が生まれます。

① 何の仕事をどう変えるか、一文で示す

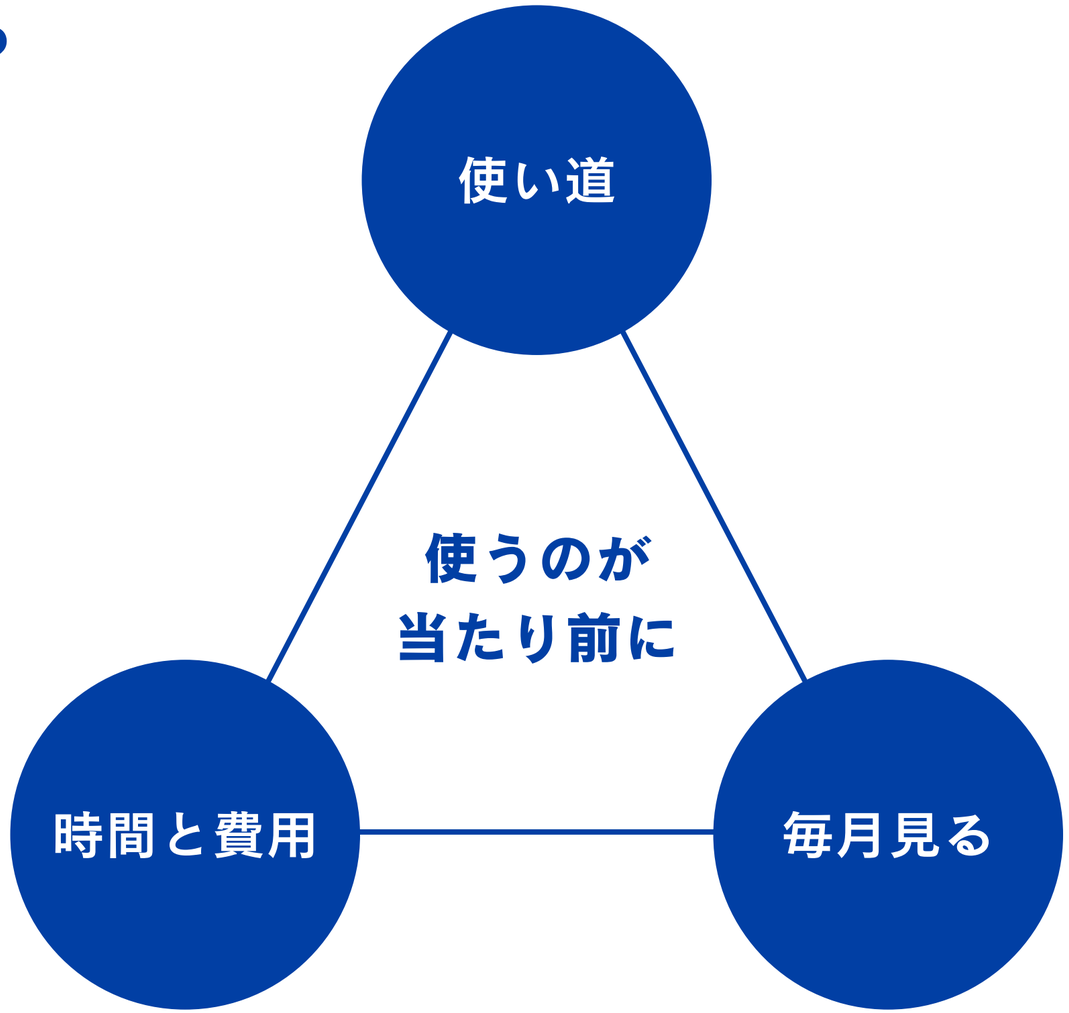
② ツール代だけでなく、練習の時間を勤務時間に取る

③ 月に1回、使う人の数と元に戻った仕事を見る





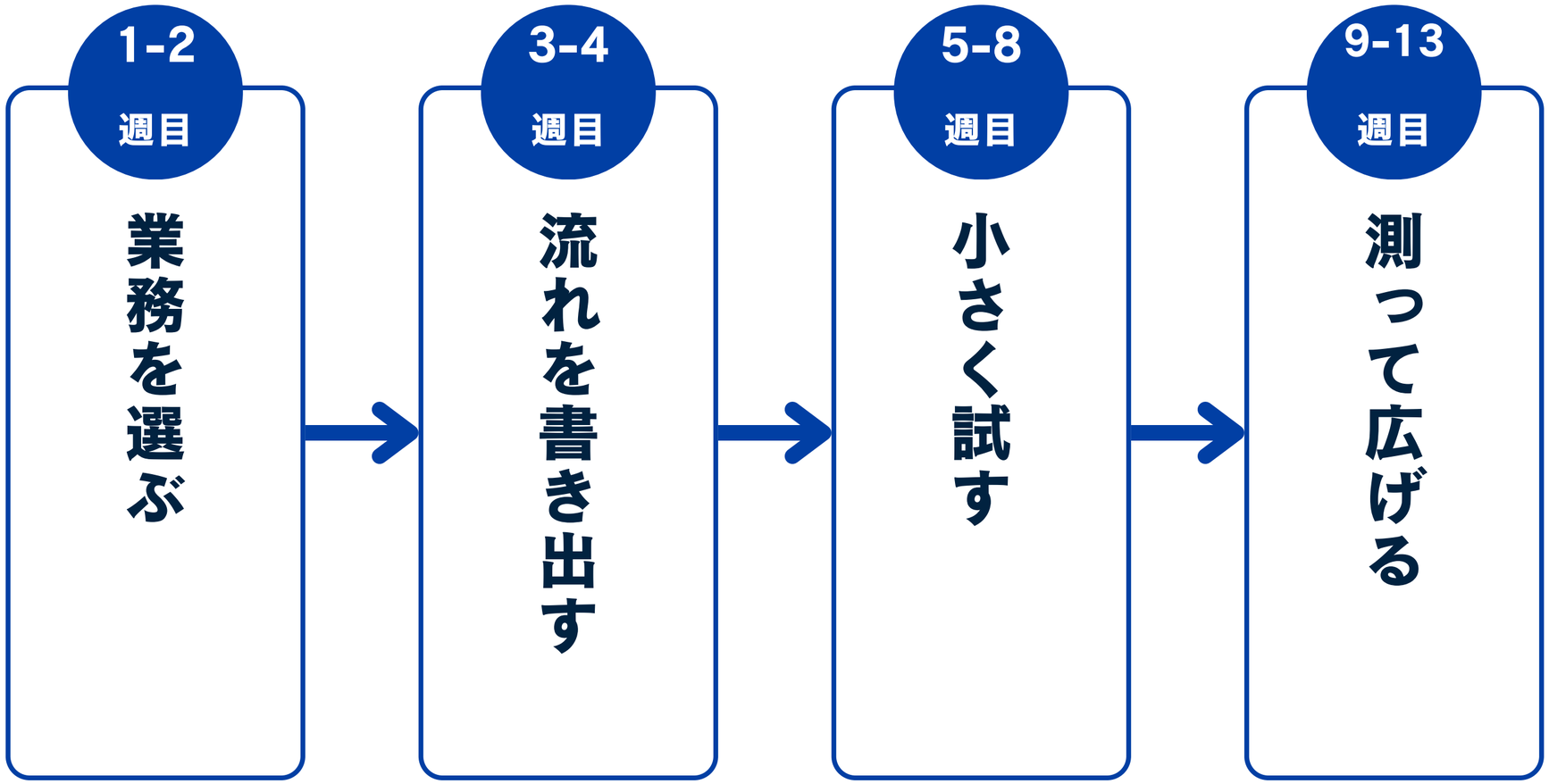




出典：総務省『令和8年版 情報通信白書』（中小企業の生成AI推進策）

最初の90日の進め方

業務を1つに絞り、流れから変える



毎日やっていて、困っている人が多い業務を選ぶ。

古いやり方をいつやめるかも、試す前に決める。

AIを使うなら、流れを書き出す段階で「入れてよい情報」を決めておく。

定着を測る物差し

「使うつもりか」ではなく、使った事実を数える

物差し	見方	目安
毎週使っている人の数	対象者のうち何人か	会社ごとに決める
流れに組み込まれた業務	手順書に「このツールで」と書かれた業務	90日で1つ以上
元のやり方に戻った件数	紙・Excel・電話に戻った仕事	減っているか
現場の改善要望	「使いにくい」の件数と、直した数	出ていれば良い兆し

出典：Turner ほか（2010）Information and Software Technology（技術受容モデルと実際の利用の関係を調べた系統的レビュー）

「使うつもりですか」と聞くアンケートは、実際の利用をあまり予測しないことが研究で分かっています。同じ物差しを、毎月同じ日に見ます。

08 SELF CHECK

01 使い道を一文で言える

02 社長が毎月、様子を見る

03 練習時間を勤務時間に取る

04 入れた後に手順書を直した

05 古いやり方をやめる日がある

06 聞ける人を全員が知っている

07 使う人の数を数字で見ている

08 使いにくい点を直した

09 AIの出力を確かめる人がいる

10 AIに入れる情報の決まり



「はい」の数の目安（当社の考え方）

8〜10：根づき始めている

5〜7：どれかの型で止まりかけている

0〜4：使い道と社長の関わりから見直す

AIならではの注意は3つ

使い方の前に、確かめ方と入れてよい情報を決める

出力を確かめる

決めること 1

人が読む

- 数字や名前は原典で確認
- 社外に出す前に人が読む
- 確かめる担当を決める

まずここから

入れる情報を決める

決めること 2

4つの区分

- 公開・内部・機密・高機密
- 迷ったら一段上で扱う
- パスワードは入れない

つなぐのは読み取りから

決めること 3

人が承認

- 必要なデータだけにつなぐ
- 送信・削除は人が承認
- 操作の記録を残す

詳しくは「AI利用ルールのひな形」と「生成AIセキュリティ解説書」（ren-llc.jp/ai-security/）へ

出典と根拠の強さ

A：公的統計・査読研究　B：公的な事例集　C：ツール会社の資料

公的な調査は「こうしている会社ほど成果を感じている」という関係を示すもので、原因と結果を証明するものではありません。

お客様の声は、当社が2026年8〜10月にお話を伺った企業の発言を、社名が分からない形に整えたものです。

【A】中小企業基盤整備機構「中小企業のAI・IT活用に関する実態調査」2026年3月
【A】総務省『令和7年版・令和8年版 情報通信白書』
【A】IPA『DX動向2025』
【B】中小企業庁『2021年版・2025年版 中小企業白書』事例
【B】経済産業省「DXセレクション2025」
【A】Thong (1999) J. of Management Information Systems
【A】Klein, Conn & Sorra (2001) J. of Applied Psychology
【A】Bresnahan, Brynjolfsson & Hitt (2002) Quarterly J. of Economics
【A】Bloom ほか (2013) Quarterly J. of Economics
【A】Sykes, Venkatesh & Gosain (2009) MIS Quarterly
【A】Turner ほか (2010) Information and Software Technology
【A】Dell'Acqua ほか（BCGとの実験）／Otis ほか (2026)
【C】ツール各社が公開している定着の手引き

ご相談

どこから手をつけるか、を決める

3分の現在地診断で、止まっている原因と最初の一手がその場で分かります。
AIの利用ルールのひな形や、生成AIのセキュリティ解説書もご用意しています。



現在地診断（約3分・無料）

ren-llc.jp/shindan/



メールアドレス

info@ren-llc.jp



ご相談・お問い合わせ

ren-llc.jp/contact/

合同会社REN（REN LLC.）

愛媛から全国へ、オンラインで対応します